

第18回(令和7年) 定時社員総会

令和7年5月26日に東京・大手町のKKRホテル東京にて、理事・監事会、第18回定時社員総会が出席54社、委任状提出34社、総計88社により開催されました。

今回、任意団体として協会が発足した時から役員を務め、19年間にわたり会長を務められた野崎正和会長が勇退し、相談役に就任されました。新会長には副会長を務める横山工業の横山英樹取締役会長が就任されました。村田薫専務理事も退任して顧問に就任し、新たな専務理事には田村晃一参事が就任されました。

総会で、横山新会長は「われわれの業界は働き方改革で非常に大きな変革の時期を迎えている。業界の実情はわれわれ自身がよく知っている。野崎会長が敷いてくれたレールを生かして、行政はもちろん関連諸団体と意見交換をしてより良い方向にもっていくよう、皆さんと一緒に頑張っていきたい」と述べ、業界発展のために尽力する考えを示されました。

勇退する野崎会長は今までを振り返り「この協会ができて本当に良かった。行政に業界の実態や意見を聞いてもらい、施策に取り入れてもらっている。今後も担い手確保や業界の改革に向けて頑張っていきたい」と後進にエールを送る一方、総会冒頭では、業界で働き方改革が進むものの、発注者側の「歩掛かりがその実態に追いついていない」とし、この“温度差”を行政に訴え、改善していく必要性などを強調されました。

25年度事業計画には、魅力あるトンネル業界や人材確保策の提言をまとめること、活動テーマで取り上げた「抗内休憩時間および女性の坑内作業に関する規制緩和」に向け、土木学会、日本建設業連合会など関係機関と連携して厚生労働省に働き掛けること、来年度から登録トンネル基幹技能者講習をeラーニング方式に変えるための準備を進めることなどが盛り込まれました。

一般社団法人 日本トンネル専門



《表彰状・記念品贈呈》



1. 感謝状

長きに亘り代表理事会長としてご尽力されました野崎正和氏(成豊建設(株))、常務理事としてご尽力されました金子順氏(株金子組)、専務理事としてご尽力されました村田薫氏(日本トンネル専門協)に感謝状と記念品が授与されました。

2. 表彰状

当協会の推薦により国土交通大臣優秀施工者(建設マスター)及び厚生労働大臣安全優良職長顕彰を受けた方に会長より表彰状と記念品が授与されました。(欠席者の分は代理受領)

建設マスター	柴田敬稔 氏(石田土木(株))
〃	中村行良 氏(横山工業(株))
〃	中尾 勇 氏(北新建設(株))
〃	飯尾宰央 氏(協拓建設(株))
安全優良職長	田澤正滋 氏(寿建設(株))

就任インタビュー

《6月27日 日刊建設工業新聞、建設通信新聞2誌による合同インタビュー》



会長に就任した横山英樹氏（横山工業取締役会長）は「トンネル工事独自の安全文化を高めたい」と力を込めました。どれだけ新4K（給与・休暇・希望・かっこいい）を実現しても安全の確保なくしてトンネル工事業界の持続的発展はあり得ないからです。担い手確保や女性技能者の坑内労働規制といった課題がある中、協会の運営方針などの質問がされました。

就任の抱負：「トンネル工事は、ひとたび事故が起きると重篤災害につながりやすいだけに、安全文化をつくることが大切だ。現場がきれいになって、技能者の処遇改善も進んでいると言っても、死亡事故が起きやすい業界に人は入ってこない。それぞれの現場で発生しているヒヤリハットの事例を集め、その防止策を水平展開していきたい」

協会運営の方針：「変化の激しい時代にあって、われわれトンネル工事業界もタッグを組まなければ生き残っていけない98社の会員企業が安全や技術などに関して情報交換することで、よりメリットを感じられる組織にしていきたい」「野崎正和前会長が、土木学会や国土交通、厚生労働両省など、様々な団体・機関との意見交換の場をつくってくれた。こうした場を継続し、異業種の皆さんと意見を交えて得たものを取り込んでいきたい」

トンネル工事の市場環境：「全体的な工事量は漸減傾向にあり、特に新設の鉄道トンネルは限定的だ。一方、道路トンネルに関しては災害対策として海拔が低いトンネルの山側移設や、古くて内空断面積が小さいトンネルの拡幅などの需要が見込める」

担い手確保について：「各社でトンネル現場を案内したり、宿舍の個室化などを進めたりしている。最新の重機はスティックを使い、ゲーム感覚で操作できるものもある。現場見学会では、小中学生にこうした重機を体験してもらっている。トンネル工事の魅力を伝えるには、現場をもっとオープンにすべきだ」「女性技能者の坑内労働規制の問題もある。男女平等が叫ばれて久しく、一般的な土木工事や建築工事では女性技能者がごく普通に働いている。しかし、トンネル工事では、いまだに女性技能者の坑内労働が認められていない。現場は着実に機械化が進んでおり、きれいで明るくなっている。女性技能者が坑内で仕事ができるよう、厚労省に継続的に働き掛けていきたい」

生産性向上の取り組み：「ゼネコン各社が開発した新技術をわれわれが早く身に付け、それを共有できれば良いが、地域によって地質が異なり、全ての現場に採用できるわけではない。とは言え、安全確保につながる技術も多いため、今後は自動化や遠隔化などの技術導入に本格的に取り組んでいく」と答えられました。

新春セミナー、賀詞交歓会

1月30日に東京・大手町のKKRホテル東京にて新春セミナー、賀詞交換会が行われました。

冒頭、野崎会長は「昨年4月から時間外労働の上限規制が適用され、様々な問題が起きている。トンネル坑内での休憩を休憩時間として認められるよう現在休憩用クリーンルームの検討を進めている。積算も10時間労働の出来高になっており、全ての発注者に8時間に変えてもらうよう活動している。女性技能者の坑内労働緩和にしても法律上の問題であり、個社では対応できない。加えてトンネル施工のDX（デジタルトランスフォーメーション）化や自動化などにも積極的に取り組む必要がある。会員企業が一丸となり、トンネル業界の改革を進めていきたい」と述べられました。

続いて、国土交通省不動産・建設経済局建設振興課の松田慧吾専門工事業・建設関連業振興室長が「最近の建設産業の施策～第3次担い手3法について～」と題して講演し、中央建設業審議会のワーキンググループで行われている労務費の基準（標準労務費）の検討状況などを説明されました。

この後、賀詞交歓会があり、来賓を合わせて約130人が新年の門出を祝われました。



《行政講演(質疑応答含)》

「最近の建設産業の施策～第3次担い手3法について～」

講演者:国土交通省 不動産・建設経済局 建設振興課

専門工事業・建設関連業振興室長 松田慧吾 様



佐々木土木学会長と座談会

4月3日に、佐々木土木学会会長らとの意見交換会が東京都内で開かれ、女性技能者の坑内労働規制問題について活発に討議されました。佐々木会長は「女性の活躍推進と先端技術の導入は密接に結び付いている。技術の進展に対応できていない現行制度の見直しの必要性を主張すべきだ」と強調されました。

日本では、1947年に制定された労働基準法で女性の坑内労働が全面禁止となりました。その後、85年の同法改正により、「医師・看護師の業務」「取材の業務」「高度の科学的な知識を必要とする自然科学研究の業務」について臨時的入坑が許容され、さらに2006年には技術上の管理業務および指導監督の業務について、就業制限の範囲から除外されました。これによりゼネコンなどの女性技術者の坑内労働が可能となりましたが、女性技能者の坑内労働は現在も禁止されています。

意見交換会には、同協会幹部5人と土木学会D&I(ダイバーシティ・アンド・インクルージョン)推進委員会のメンバーら6人が出席されました。冒頭、野崎会長は「トンネル工事には女性の坑内労働問題がある。女性初の土木学会長とこうした機会が持てたことに感謝したい」と語りました。

会合では協会幹部から「協会が実施したアンケートでは、女性の坑内就労への賛成意見が圧倒的多数を占めた。協会単体では限界があるため、土木学会や日本建設業連合会など業界を代表する団体と連携して女性の坑内就労解禁を求めている」「当社の女性作業員もトンネル現場での作業を希望している。ただ、宿舍を含めた生活環境がハードルになっている」といった意見がありました。

一方、委員会メンバーからは「ずり出しに関する一部の業務だけでも規制対象から削除されれば、鉄筋工・型枠工・生コン運転手などの職種で女性の就労が可能になる」「発注者の理解を得やすくするためには女子寮などを標準装備として整備しておくことが重要だ」などの声が上がりました。

また、佐々木会長は「制度改革の方向性として『女性活躍』『先端技術の進展』『担い手不足対策』の3点セットでの訴求が効果的だ」と述べられました。



幹部養成研修

7月31日、8月1日に東京都港区新橋にて幹部養成研修が行われました。

幹部社員にとって重要なテーマとなる「企業に存在するリスク」と「リスクマネジメント」について広く知見を有する経営コンサルタント「株式会社プレビス」所属講師と、当協会会員企業である株式会社金子組の石田信行役員を講師に招き、講義・ディスカッションを主体とした全員参加型で行われました。1日目は、石田講師より企業のリスク管理の大きな要素のひとつである「安全管理」についての講義を実施、2日目は、経営コンサルタントより企業活動において想定される様々なリスクを抽出し、その管理手法を講義とディスカッションを通じて学びました。

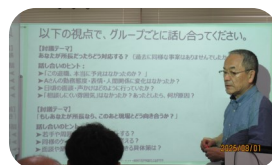
講義：『現場における労働関係法令全般について』

(株)金子組取締役安全管理部長 石田信行 様



講義：『VUCA時代の経営リスクとは』

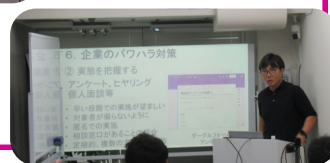
(株)プレビス 徳山 誠 様



講義：『事例で学ぶ 建設業で知っておきたい労務管理のヒント

～企業の上層部に必要なパワーハラスメント対策を中心に～』

(株)プレビス 伊藤 建 様



ずい道等の作業主任者技能講習

○2月7・8日に「ずい道等の掘削(シールド)等作業主任者技能講習」を開催し、20名の方々が修了されました。

○4月17・18日に「ずい道等の掘削等作業主任者技能講習」を開催し、17名の方々が修了されました。

○8月21・22日に「ずい道等の覆工作業主任者技能講習」を開催し、14名の方々が修了されました。

登録トンネル基幹技能者講習

○7月16～19日に富士教育訓練センターにて登録トンネル基幹技能者講習が開催されました。

登録基幹技能者育成委員会(外部委員2名を含む)による審査の結果、15名の修了が承認され、累計修了者は852名になりました。

○5月に更新講習が行われ、56名の資格有効期限が更新されました。

協会からのお知らせ

【今後の予定】

2025/10/02～03

ずい道等の掘削等作業主任者技能講習

2025/10/17～18

現場見学・研修会

2025/11/12～15

令和7年度第2回登録トンネル基幹技能者講習

2026/01/29

新春セミナー、賀詞交歓会

2026/02/05・06

ずい道等の掘削等作業主任者技能講習(シールド)

この会報に対するご意見・ご感想、又ご入会に関する詳しいお問合せは下記の事務局までお願いします。



一般社団法人 Association of Nihon Tunnel Construction Sub-contractors

日本トンネル専門工事業協会

〒105-0003 東京都港区西新橋1-9-1 ブロードリー西新橋9階

TEL:03-5251-4150

FAX:03-3591-3550

URL : <http://www.tunnel.jp>